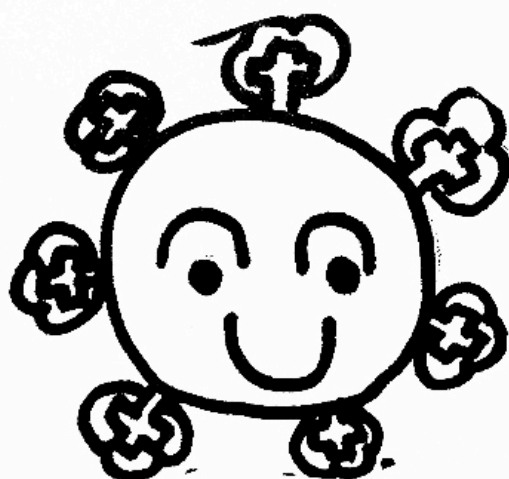


だがしや楽校交流事業・まんまるプレイパークの巻

3日目・4日目



まんまる
まるまる
たのしさもりもり



2012年
3月27日(火)
28日(水)
4月1日(日)
2日(月)



主催：まんまるプレイパーク

《山形・米沢に戻っての3日間》

3月28日夜、山形・米沢に戻りますと、たくさんの情報が私（山口）を待っていました。

米沢では、毎週水曜日、福島からの避難者と地元米沢・置賜の人たちが集い楽しく過ごすお茶会が開かれています。この日のお茶会は、平成23年度の最後ということで特別だったからです。その場に居ることができなかったのは残念でしたが、身体はひとつしかありませんので、仕方ありません。

“だがしや楽校”普及事業による成果で、今の私（山口）は、避難者支援も大きな活動のひとつになりました。

3月29日は、米沢から約50km離れた山形市へ出張です。平成23年度の“だがしや楽校”普及事業について、山形県へ報告するためです。

3月30日は、米沢から約150km離れた鶴岡市へ出張です。山形県から“だがしや楽校”普及事業を受託した鶴岡市のNPO法人、公益のふるさと創り鶴岡の理事会で、活動報告を行うためです。この日は鶴岡に宿泊です。私たちのために送別会を開いてくれたからです。送別会は盛り上がり、床に就いたのは翌3月31日の午前3時でした。

その3月31日は、鶴岡市から新庄市に立ち寄り、挨拶回りです。さらに山形市へ移動して、駄菓子屋“はじめや”など“だがしや楽校”関係先をまわりました。さらに、山形市では、夜もミーティングがあり、米沢に戻ったのは、夜の10時を過ぎていました。

というわけで、山形・米沢に戻っての3日間は、米沢に落ち着くことができないまま、過ぎていきました。

そして、気が付いたら、“だがしや楽校交流事業・まんまるプレイパークの巻 まんまるまるまる たのしさもりもり”第2弾の当日を迎えていたのであります。

《当日の朝》

このように、ハードな3日間だったのですが、あまり疲れは感じません。再び、まんまるプレイパークの子どもたちや会津坂下町の子どもたちと会えるからでしょうか、午前5時前には、パソコンに向かっていました。やっぱり子どもパワーは凄いです。今から元気をもらっています。

この日から4月だというのに、米沢は雪の朝です。でも、天気予報を見ると、首都圏は良い天気のように、ホッとします。

出張準備も怠りなくします。特に事前チェックするのは、ビデオカメラです。これがないと、記録できません。報告も書くことができません。写真にも起こせなくなります。

パソコンなどもカバンに詰め込みます。今回も重たい荷物になりました。

午前7時すぎには自宅兼事務所を出発。米沢駅から横浜へ向かいます。

山形新幹線の中では、ほとんどの時間、パソコンに向かっていました。なぜなら、第1弾のレポートが、ほとんど手つかずだからです。それで、簡単なレポートだけでもインターネット上にアップしたかったからです。ハードな3日間の“ひとりごとダイアリー”の執筆もありました。新年度になって、ホームページのメンテナンスもあります。

やることがいっぱいです。でも、こういう時に限って、山形新幹線はアッと言う間に首都圏に着きます。横浜市都筑区には午前11時前に到着しました。

集合時間の 12 時 30 分には時間がありますので、横浜市営地下鉄・センター南駅近くのカフェでパソコンに向かいます。天気は良いですが、時より強く吹く風はまだ冷たいです。

12 時をすぎました。パソコンをカバンに入れ、センター南駅の南西に位置するスキップ広場に行きます。早くもまんまるプレイパークの子どもたちが集まっていました。

「さあ、会津坂下町の子どもたちは、スキップ広場まで来ることができるかな」と思って、センター南駅に向かおうとしますと、佐藤房枝さん（会津坂下町・金上公民館）と子どもたちの姿が見えました。まさに感激の瞬間です。1 月以来の再会なのに、何年も会っていなかったお友だち同士が、やっとの思いで再開した感じです。

会津坂下町からは 5 人の子どもたちが参加する予定でしたが、1 人だけ治りきらないということで残念ながら参加できなくなったとのことでしたが、それにしても、良かった！！

まもなく、西田さんらまんまるプレイパークの人たちも全員集まりました。

それでは、“だがしや楽校交流事業・まんまるプレイパークの巻 まんまるまるまる たのしさもりもり” 3 日目の模様をご紹介します。

2012 年 4 月 1 日（日曜日）横浜の天気：晴れ

【だがしや楽校交流事業・まんまるプレイパークの巻・3日目】

12 時 40 分、開会式が始まりました。司会進行は、いつものように会長君です。

子どもたち、そして大人の順番で自己紹介です。今回もたくさんのまんまるプレイパークに関わる大人の皆さんの協力がありました。本当に素晴らしいことです。



写真は、開会式に参加した全員が写っている 2 つの画像と、会津坂下町の子どもたち 4 人が写っている 2 つの画像です。



自己紹介のあとは、会長君たちによるこのあとのスケジュール紹介です・・・と思ったら、近くの教会の鐘の音がスキップ広場に響き渡ります。みんな鐘の音に気を取られてしまいます。教会の方を見ますと、結婚式を終えた新郎新婦の姿が見えます。

オッと、脱線しました。

このあとのスケジュールは、スキップ広場でお昼のお弁当を食べ、休憩した後、ミステリーツアーです。そのあと、宿泊先であるくろがね青少年野外活動センター（横浜市青葉区）へ移動して、バーベキューを楽しみます。

そう言えば、“つづき楽校・わいわい横丁”を開いたスキップ広場ですが、第 1 弾（3 月 27 日・28 日）の時には工事中で入ることができなかったのですが、その工事が終わり、この日はノビノビと遊ぶことができました。

《緑道ミステリーツアー》

今回の“まんまるまるまる たのしさもりもり”を実施するにあたり、会津坂下町の子どもたちに、都筑区のことを楽しく知ってもらう企画として、“まんまるプレイパーク”の子どもたちが考えたのが“緑道ミステリーツアー”です。よくぞここまで考えたものです。子どもたちに脱帽です。

緑道（りょくどう）とは、公園と公園、駅と公園を結ぶ道のことです。

横浜市にある18の区の内、最も新しい区が都筑区。昔は横浜のチベットと呼ばれていたほどで丘陵地帯の中で僅かに人が住んでいた地域です。そこへ新しく街をつくるにあたっては、なるべく自然を残そうという配慮がなされた結果、自然豊かな公園がたくさんできました。“まんまるプレイパーク”の鴨池公園も、そのひとつです。緑道も、その中でつくられました。

この“緑道ミステリーツアー”では、ゆうばえの道とささぶねの道という2つの緑道をコースに、「途中で出くわすさまざまな困難をのりこえ、指令に従ってゴールを目指す」というものだそうです。

午後2時、西田さんがグループ分けをします。

Aグループ：女の子7人、Bグループ：女の子6人

Cグループ：男の子6人、Dグループ：男の子5人。

グループは全員子どもです。大人は付きません。



つづいて、ルールの説明です。

ゴールは“くろがねキャンプ場”（横浜市緑区：ここから直線距離でも5km以上あります。くろがねキャンプ場については、あとで詳しくご紹介します）です。

グループ全員バラバラにならないで動くこと。12の『指令』をクリアすること。そうでないと移動に必要な交通費（電車代・バス代）がもらえません。途中、黒い服のハンターに出くわし、捕まってしまうと、顔に（水性ペン）で黒く塗られる？かも。

さあ、いよいよ“緑道ミステリーツアー”の始まりです。

午後2時4分、西田さんが子どもたちに〈指令1〉を渡します。（右の写真）

◎指令1：東急ショッピングモールの1階で、はんすとツトムを探して、次の行き先と交通費をゲットせよ



東急ショッピングモールは、スキップ広場の南側に位置するセンター南駅前最大のショッピング施設です。

子どもたちは、早速ショッピングモールに向かいます。そして、ショッピングモール内ではんとツトムを探します。



女の子たちのグループが、はんす（プレイリーダー：山崎さん）をすぐに見つけました。子どもたちは、はんすから〈指令2〉を受け取ります。そして、指令が書いてある紙を覗きます。



ところが、指令の紙は半分だけ。横浜市営地下鉄で、センター南駅から都筑ふれあいの丘駅に向かいことまではわかりますが、そのあとがわかりません。ツトムを探さないと〈指令2〉はクリアできません。子どもたちは、再びショッピングモール内を歩き回ります。



男の子たちのCグループが、ようやくはんすを見つけました。はんすから〈指令2〉を受け取ります。これで全部のグループが、はんすを見つけたことになります。

さて、ツトムはどこにいますでしょうか。しかし、なかなか見つかりません。小さなお子さんの中には早くもくたびれてしまったのか、泣き出すお子さんが・・・。

下の写真左は、なかなか見つからず、ちょっと困った様子の子どもたちです。



ついにAグループがツトム（西田さんのご主人です）を見つけました。（写真右）

ツトムが隠れていたのは入口近くのブティック。子どもたちはブティックの前を歩いたものの「ここにはいないよ」と思い込んでしまったため、なかなか見つけれませんでした。

◎指令2：メゾン桜ヶ丘に行って、赤い服の女を探せ

メゾン桜ヶ丘へ行くには、横浜市営地下鉄・グリーンラインに乗って、センター南駅から都筑ふれあいの丘駅まで移動します。

ツトムを見つけたAグループの女の子たちは、東急ショッピングモールからセンター南駅へ向かい、切符を買い、改札を通してホームに行きました。その素早さには、私（山口）は付いていけません。

“緑道ミステリーツアー”の大人向けの資料はいただきました。また、都筑区には何度も訪問している私です。しかし、いきなり“メゾン桜ヶ丘”と言われても、どこにあるのかは、わかりません。これでは置いてきぼりかな……。チョッピリ、ムツとする私です。

でも、ちょっと待った。まだ男の子たちがセンター南駅に来ていません。それで、スキップ広場前まで戻ってみますと、Cグループの子どもたちがやって来ました。「自分たちが最後（最後方）です」という子どもたち。

というわけで、ここからはCグループの子どもたちや会津坂下町の佐藤さんらといっしょに、ノンビリと“緑道ミステリーツアー”を楽しむことにします。



センター南駅に着いた子どもたちは、都筑ふれあいの丘駅までの切符を買います。都筑ふれあいの丘駅は、横浜市営地下鉄・グリーンラインで、南西方向へ1つ目の駅です。距離は1.7km。料金は大人200円、子ども100円です。



切符を買ったら、改札を通して、コンコースに入ります。センター南駅は、ブルーラインとグリーンラインが通る駅です。グリーンラインのホームは東側です。間違えないようにホームへ向かいます。

ホームでは、「これって地下鉄なの」と子どもたち。センター南駅は青空が見える駅です。電車に乗り、3分ほどで都筑ふれあいの丘駅に着きました。時刻は午後2時36分です。



改札を出ますと、北西方向へメゾン桜ヶ丘を目指します。オーケストアの脇を歩きます。歩道ですので、車は通りません。会長君、オーケストアの説明をします。小さな子どもたちが遊びながら歩きます。Cグループは、まったり進みます。

「指令があと10もあるよ。1時間で行けるかな」「え〜！」という会話。



やがて、桜並木です。でき、ほとんど桜は咲いていません。例年なら今頃がちょうど見頃なるそうですが、今年は遅れているようです。残念です。

会津坂下町のReo君がおんぶです。Reo君は、相撲大会で優勝したことがあるそうです。



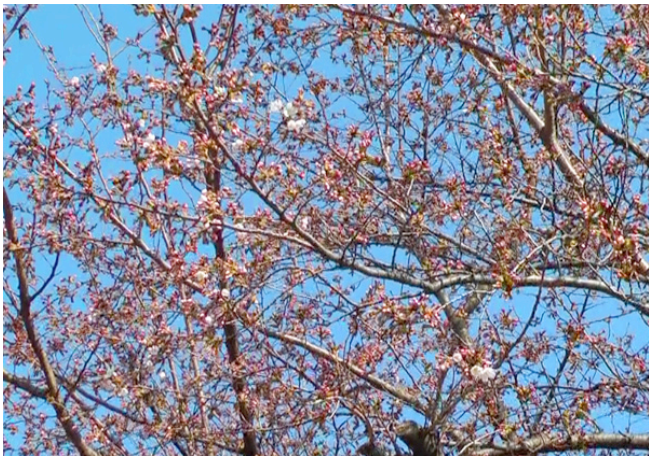
都筑ふれあいの丘駅から 500 メートルあまり、ようやくメゾン桜ヶ丘に着きました。



団地内に入ると、西田さんとBグループの子どもたちと会いました。Bグループは、公衆電話で電話しています。これも指令でしょうか。



とりあえず、赤い服の女を探します。Cグループの子どもたちが団地内に入っていきます。団地内の桜も、やっと咲き始めたばかりです。



アッ！あそこに赤い服の女がいます。

子どもたちは「まさみっちょだよ」と言いながら赤い服の女に近づきます。そして「まさみっちょだよね？」と言いながら、髪をあげます。「まさみっちょかな？」とだんだん不安になります。

「ミステリーツアーと関係ない人だったらどうするの？」と佐藤さん。

「宮本さん？」と子どもたち。正解です。



赤い服の女は、子どもたちに指令を渡します。その指令とは・・・

◎指令3：10－〇〇〇 →1ばんちいさいひとがいくこと
11－〇〇〇 →1ばんおおきいひとがいくこと
(10と11は棟番号、〇〇〇は世帯番号3ケタの数字です)

子どもたちは、団地入り口の掲示板で棟番号を確認し、10号棟・11号棟に向かいます。団地入り口から一番奥の11号棟までは200メートル近くあります。また少し坂もあります。

子どもたちは、11号棟前に来ました。入口が2カ所あります。「こっちだよ」と言って、「1ばんおおきい」2人が入っていきます。でも、間違いです。残った子どもたちから「大きい人、ちがうよ。こっち」と言われて引き返します。

2人は別の入口から建物に入ります。目的地は5階です。子どもたちは「着いたら『警察の者です』と言おう」などと言いながらのぼります。私（山口）もビデオカメラを持ちながら、そして息を切らしながら、追いかけます。5階に着きました。



ピンポン……。中からKさんが出てきます。Kさんは、子どもたちの冗談にもにこやかな表情で、指令4の紙を渡します。指令をもらった子どもたちは引き上げます。Kさんは引き上げる子どもたちに「がんばってね」と声をかけました。私はKさんと挨拶し、5階からの風景を撮影します。5階となると、相当高いです。



下に戻って、子どもたちは指令4を確認します。電話番号が書いています。会長君の調べで、まさみっちよの電話番号であることがわかりました。でも、指令には電話番号しか書いてありません。

そう言えば、指令3の「10－〇〇〇 →1ばんちいさいひとがいくこと」をクリアしていないことに子どもたちが気付きました。



それでは「１０－〇〇〇へ行こう」となります。

１０号棟の前に来ました。ところが・・・！！

なんと、Ｋさんから指令４の紙を受け取った時、子どもたちは「１０－〇〇〇」が書いてある指令３の紙をＫさんに渡してしまっていたのです。さあ、どうしましょう……。一瞬途方に暮れる子どもたち。（下の写真左）



おもむろに私は指令３の紙を子どもたちに差し出します。「どうして持っているの？」という子どもたちに「これが大人です」と答える私。（上の写真右）

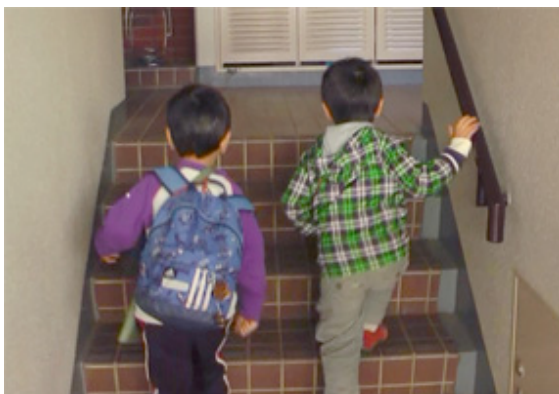
実は、子どもたちが引き上げた後、Ｋさんと挨拶した時、Ｋさんから指令３の紙をもらっていたのです。正直言いますと、この時点で私も、指令３の紙がまだ必要であることは、よくわかっていませんでした。しかし、直感的に、Ｋさんに渡すものではないと思いましたので、Ｋさんからもらったのです。

いやはや、ヒヤヒヤの連続です。

でも、私はこれで良いと思います。人間というものは完璧ではありません。増して、子どもたちです。大事なものは、大人の「適度なフォロー」です。

子どもに、すぐに口出しする大人、手出しする大人も、困ったものですが、放任しすぎる大人も問題です。人間としての子どもたちを尊重する、子どもたちの自主性を尊重することは言うまでもありませんが、大人の「適度なフォロー」も必要です。

さて、２人の「１ばんちいさいひと」が建物に入ります。今度は２階です。



ピンポン……。中からＳさんが出てきました。そして、Ｓさんは、にこやかな表情で、指令５とお菓子を渡しました。そして、引き上げる子どもたちに「がんばってね」と声をかけました。私もＳさんと挨拶し、下に戻りました。

これで、ようやく指令３をクリアしました。

◎指令4：まさみっちよの電話番号

◎指令5：このカードで三角広場近くの電話ボックスから電話せよ

子どもたちは、団地の入口近くにある公衆電話ボックスへ移動します。オッと、ここでも道草です。まったくグループです。良いですね～。



電話ボックスに着きました。そして、会長君がまさみっちよへ電話します。

会長君「指令5で電話をかけたのですが」・まさみっちよ「仲間何人いる?」。会長君「6人」。まさみっちよ「仲間にかわって」。

電話をかわります。途中で、時間が来て、電話が切れます。スムーズにかわれれば、時間内に終わるはずですが、そうはいかないのが子どもたちです。

子どもたちは佐藤さんから携帯電話を借りて（下の写真左）、まさみっちよへ電話します。小さなお子さん2人を除く4人全員が、まさみっちよと電話しました。最後になった Reo 君が、まさみっちよから「次の指令は電話ボックスの中に貼ってある」と告げられます。



子どもたち、電話ボックスの中を探します。ありました。時刻は午後3時25分です。

◎指令6：鴨池に向かってすすめ。途中で会う車いすのあっちゃんから次の指令をうけとれ

Cグループの子どもたちは、メゾン桜ヶ丘を後にして、鴨池公園に向かいます。途中、西田さんに会います。子どもたちが西田さんに「時間に間に合いません」と言いますと、西田さんは「時間は気にせず、最後までがんばって」と言います。



メゾン桜ヶ丘入口から 200 メートルあまり歩いたところで、あっちゃんがいました。変装しています。あっちゃんも“つづき楽校”仲間です。あっちゃんから指令をもらいます。



◎指令7：道先案内人に道を案内してもらおう！！

でも案内人がいないときもあるよ。かえってくるまでおやつをたべてまってね・・・

子どもたちからは「これじゃ、時間がかかってしまうよ」「案内人に電話しよう」などの声があります。アレ、子どもたちは案内人の電話番号って、わかるの？

そう思いながら進むと、「案内人はこっちにかくれています」というアドバイス。

そこでさらに進みますと、案内人がいました。



子どもたち「『この案内人がいます』の看板があるところにいなくちゃ・・・」

案内人「遅いからだよ。ずっと待っていたんだよ」

そんな会話をしながら、鴨池公園に向かいます。

本当なら、案内人はここで、怪談話をしながら山の入口まで案内することになっていましたがCグループがあまりにも遅いので、それどころではなくなっちゃったようで・・・

山の入口に着きました。(右の写真)
案内人は「ここから先、幽霊がいるんだって。幽霊に会って指令を受けてください」と告げます。



いよいよ山の中に入ります。しばらく進むと、前方に怪しい人影が・・・(下の写真左)



怪しい人影（幽霊という設定です）に近づく子どもたち。(上の写真右) でも平気です。
そこへ、大きな声をあげて・・・！（下の写真左）



一目散に逃げたのは、「ちいさなこども」でなく「おおきなこども」・・・だったりして。

それにしても、ここは緑深い公園です。起伏もあり、「山」というにはオーバーな感じですが、自然を堪能することができます。

先にご紹介しましたが、都筑区は自然豊かな公園がたくさんあります。

ここも鴨池公園ですが、目的地のまんまる広場までは、約 200 メートルです。

幽霊と遭遇しましたが、指令がありません。それで、子どもたちの内2人が「ここには指令はない。もっと先だ」と言って、さっさと行ってしまいました。（下の写真左）

一部のお子さんですが、ここでも早合点してしまった子どもたち。ほかにも早合点してしまった場面があり、ちょっと気になってしまいました。今の子どもたちと、どのように接したら良いか、考えさせられた場面です。



N君たちは、道ばたにもう1つの幽霊を見つけました。（上の写真右）

会津坂下町の佐藤さんもを見つけました。（下の写真左） どうやら、このあたりに何かありそうです。



指令を持っていたのは、ランドセルを背負っていた方の幽霊でした。（上の写真右）

ようやく指令9をもらうことができました。

先に行ってしまった2人の子どもたちも戻ってきました。そして、もう1人の幽霊も見つけました。2人の幽霊にちょっかいを出す子どもたち。（右の写真）

でも、「ここまではバスに乗り遅れるかも」と促されて、鴨池公園（まんまる広場）に向かいました。

ちなみに、幽霊に扮したのは中学生のお二人でした。子どもたちがちょっかいを出す場面では笑いをこらえるのに必死。お疲れ様でした。



◎指令9：山の上で友だちが石にされてしまったの。助けるには、魔法使いの指輪が、あなたたちに1つ1つ必要なの。「ま」のつく所で、森のおじさんに探して作ってもらってちょうだい。

幽霊たちをクリアしたCグループの子どもたちは、しばらく山を歩きます。（下の写真左）



そして、山から抜け出て、いよいよ鴨池公園・まんまる広場に近づきます。（上の写真右）
まんまる広場に着いたのは、午後3時41分です。（下の写真左）



まんまる広場ではあっちゃんと再会。あっちゃんの扮装で遊ぶお子さんも・・・（上の写真右）



まんまる広場には、竹細工などでお馴染み・市川さんがいました。緑の帽子をかぶった森のおじさんとは市川さんのことです。子どもたちは、市川さんに作った指輪をもらいます。

そこには、指令10がありました。

しかし、まんまる広場には、怪しい雰囲気も・・・。ハンターがいそうです。

一部の子どもたちはハンターを見つけたのに・・・



捕まってしまいました。ハンターが顔を黒くしようとしたら、逃げてしまう子どもたちです。「往生際が悪いぞ」という声まであがります。

◎指令 10：石にされた人間は、あの山の上の本物の銅像の隣にいる。その石の人間の指に魔法の指輪をつけて助けよ



まんまる広場の東側にある山を登りますと、なるほど、三体の銅像がありました。まんまる広場には何度も来ている私ですが、ここに登ったのは初めてです。

でも、もう一体銅像？があります。これが「石のされた銅像」のようです。



子どもたちは次々に指輪をはめます・・・と言いたいところですが、袖にはめたりするなどのいたずらをしています。周りの大人からは「(自分たちも) 遅いとわかっているのに・・・」と声がかかりますが、お構いなしの子どもたちです。

ようやく6人が指輪をはめたら、銅像が動き出しました。そして、指令を渡しました。



動き出した銅像とお子さんとのこんなシーンもありました。小さいのに1人で銅像に登ったようです。

それにしても、銅像役は大変だったでしょう。腰は痛くなりそうですし、呼吸も苦しそうな感じがします。銅像役はお馴染み・まさみっちょ（プレイリーダー）でした。子どもたちからは「ジャンケンで負けたから、この役に・・・」などと言われていましたが、本当にお疲れ様でした。

◎指令 11：バスに乗って、ゴールのくろがねへむかえ。バス代は、やせた森のおじさんが持っている

子どもたちは、指令に従って、山をおりていきます。（下の写真左）時刻は午後4時00分です。



そして、森のおじさん（飯島さん）からバス代と指令をもらいます。（上の写真右）

◎指令 12：バス停池田 時刻表 市が尾で乗り換えること

バス停は、まんまる広場から南南東へ約150メートルです。そこでバスに乗ります。しかし、そのバスはくろがねキャンプ場へは行きませんので、途中で、東急田園都市線・市が尾駅（青葉区市ヶ尾町）前で乗り換えなければなりません。バスも40分間隔です。ということは、Cグループは、ほかのグループより少なくとも40分遅れになってしまうことになります。

子どもたちは、もらったバス代を確認したり、バスの時刻表を確認した後、次のバスが来るまで、まんまる広場で待ちました。



↑バス代や時刻表を確認する子どもたち



↑赤ちゃん遊ぶ Reo 君



↑中学生の皆さん、お疲れ様でした



↑飯島さん、はんす、まさみっちょ、あっちゃん
お疲れ様でした。

バスの時刻が迫ってきましたので、バス停へ移動します。



↑まんまる広場からバス停へ向かう道の
風景です。前方がバス停です。



↑バスに乗ります。
時刻は午後4時37分です。

バスは、いったん横浜市営地下鉄・都筑ふれあいの丘駅前に立ち寄り、そこから北西へ約2.5kmの市が尾駅前へ向かいます。そして、午後5時すぎ、市が尾駅前に到着しました。



写真は市が尾駅前のバス停とその周囲の風景です。ターミナルということで、周囲には大きなマンションやショップが建ち並び、にぎやかな感じです。

午後5時07分、再びバスに乗ります。(右の写真)

バスはいったん南西に300メートルほど進んだあと、片側2車線道路を北西に向かい、青葉区役所の前を通ります。そして、総合庁舎入口という交差点で東に曲がり、100メートル進んだところにある上市ヶ尾という交差点で再び北西に向かいます。この道路は横浜上麻生道路と言いますが、このあたりまで来ますと、丘陵が迫り、道路沿いの建物もややまばらになり、だいぶ奥にきた感じです。



上市ヶ尾の交差点から約1.4km。中里学園入口というバス停でバスを降ります。午後5時19分です。



バスを降りて、すぐ近くにある横断歩道を渡ります。横断歩道を渡りますと、目の前がくろがねキャンプ場の入口です。石段を登って、入口ゲートに向かいます。ところが・・・

入口には「本日休園です」という張り紙。「サッカーチームかしきりのため」とのこと。はたして、どうしたのでしょうか。

・・・次ページに続く





↑ あわてて西田さんに電話する会長君



↑ そこへ女の子さんが「ドッキリだよ！」
と言いながらゲートにやってきました。

きょうは4月1日。ミステリーツアーは最後にエイプリルフールが待ち受けていたのです。さすがの会長君たちも、このエイプリルフールまでは想定していなかったようで、西田さんに食って掛かる場面もありました。



こうして、ようやくCグループもくろがねキャンプ場に着きました。

くろがねキャンプ場・・・正式には“横浜市くろがね青少年野外活動センター”と言います。

写真に見える建物（管理棟）には宿泊施設があります。定員50名で2室に仕切ることができます。宿泊室の手前は食堂です。飲食はここです。ほかにシャワーがあります。風呂場はありません。

建物の右隣りには屋根付きの野外炊事場があります。あとでご紹介します。

その右側にはキャンプ広場があります。キャンプ広場の脇にはアスレチック広場があります。あとで、アスレチック広場で遊ぶ様子もご紹介します。写真の手前に広がるのはスポーツ広場です。

ここは、元は小学校でした。ここにあった鉄小学校は明治6年創立という横浜でも有数の古い学校でした。しかし、閉校となり、“横浜市くろがね青少年野外活動センター”としてオープンしたのは昭和57年（1982年）。今からちょうど30年前です。

校舎はキャンプ広場にあり、スポーツ広場は校庭でした。

“横浜市くろがね青少年野外活動センター”は、青葉区鉄町1380番地にあります。

『鉄町』に『鉄小学校』・・・『鉄』は『くろがね』から来ていますが、『くろがね』という地名については諸説あるそうです。

ここまで“横浜市くろがね青少年野外活動センター”については、まんまるプレイパークからいただいたしおりを参考に、私（山口）の調べを加えてご紹介しました。

午後5時25分、始めの会です。

センター・スタッフのOotaさんとEguchiさんから、センターの使い方と注意事項、それに布団などの敷き方・仕舞い方などについてのお話です。



ところで、スタッフによる説明については感じるがありましたので、恐れながら少し触れておきます。説明する時には、“横浜市くろがね青少年野外活動センター”では、「こんなに楽しいことができるんだ」という視点での説明を先にした上で、注意しなければならないこと、守らなければならないこと、おぼえなければならないことを紹介するべき、と感じました。

しかし、実際の説明では、注意すること、守ること、おぼえることばかりでした。それも一気に数多くの説明があり、私などはとても頭に入るものではありませんでした。

でも、それは私だけかも……。子どもたちの方がしっかりおぼえていたのであります。

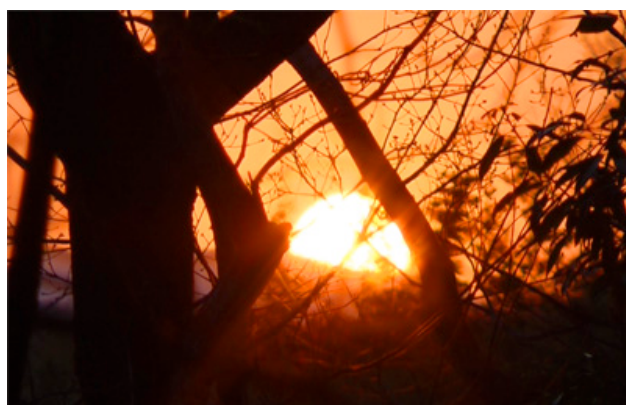
始めの会が終わって、子どもたちは外遊びを始めます。

アスレチック広場（冒険広場）に行ってみましょう。アスレチック広場は、施設の北側にあります。キャンプ広場よりも高いところにあり、周囲の景色を見渡すことができます。右の写真はアスレチック広場から見た風景で、左の建物が管理棟、右手前の緑屋根が野外炊事場、左手前がキャンプ広場です。





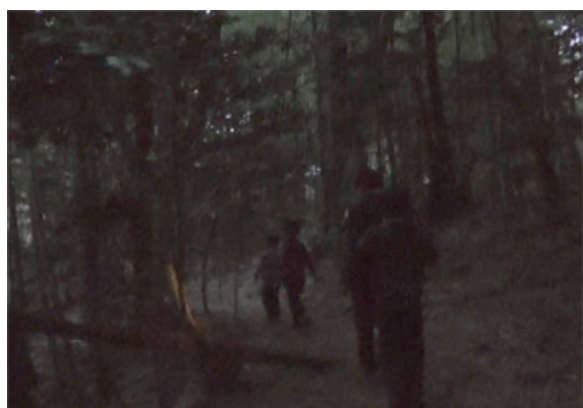
アスレチック広場で子どもたちが遊んでいる様子を見ていますと、西の空では、真っ赤な夕日が沈んでいきました。午後5時56分です。



一方、男の子たちは、北東側の裏山に入っていました。夜の肝試しの下見です。



森に入ったら、この時間（午後6時08分）でも真っ暗です。大丈夫かな？



急坂をのぼったり、木の枝を潜ったりと、大変な下見でした。さて、夜の肝試しは・・・？

下見が終わって、子どもたちを中心にした夜の肝試しについて話し合っています。くろがねキャンプ場に戻りますと、スポーツ広場でも子どもたちが遊んでいます。時刻は午後6時20分。だいぶ薄暗くなりました。



さて、夕食はバーベキューです。始めの会が終わった直後から野外炊事場では、おかあさんたちが準備を始めました。(午後5時46分、下の写真左)



おかあさんたちや佐藤房枝さんは、子どもたちが遊んでいる間も準備を続けていましたが、一部のお子さんはお手伝いを始めていました。(午後6時24分、上の写真右)

下の写真は、火起こしを手伝うお子さん、食材を切るお子さんです。



下の写真左は、野外炊事場の脇、暗闇の中、真剣勝負に興じる女のお子さんたちです。(午後6時28分) 一方、男のお子さんたちは、管理棟・食堂にて、肝試しについて綿密な打ち合わせを行っています。ホワイトボードには、細かい地図まで書かれています。(午後6時37分)



食材の準備が進んだところで、女の子さんたちが皿に盛り付けです。顔に墨が塗られているような・・・



野外炊事場で空を見上げたら、西の空に2つの星が輝いていました。上の明るい星は金星（宵の明星）です。下の星は木星です。（午後6時49分撮影）



いよいよ焼き方が始まりました。ところで、美味しい、しかもビックリするほどのたくさんのお肉を提供したのは都筑が丘商店街・肉の松本屋さんから提供していただいたものです。





ご飯も盛って、準備ができれば、みんなでいただきます～す！



みんな美味しそうに食べています。もちろん私も撮影の合間にいただきました。やわらかく美味しいお肉でした。大満足です。



お腹一杯食べたら、ご馳走様でした！ 使った食器を洗います。残り火でマシュマロを焼いている子どもたちもいました。

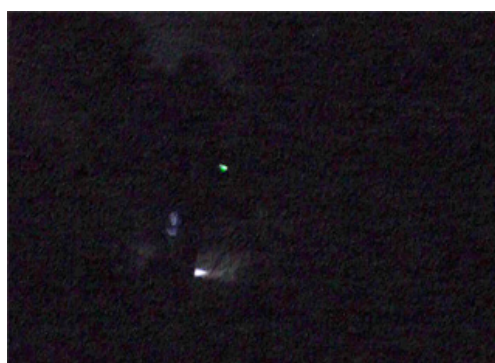


でも、最後はおかあさんたちがきちんを洗淨と後片付けをしてくださいましたので、子どもたちは「ありがとうございます」と挨拶です。

いよいよ肝試しです。まさみっちょさんから話を聞いた後、会長君が参加人数の確認を行っています。この間、はんすさんたち脅かす人たちが先に裏山に入ります。



午後8時16分、裏山に入ります。裏山は真っ暗です。私のカメラは少しでも光があると補正できますが、完璧に真っ暗なので、映りません。赤外線撮影しないと映らないほどです。

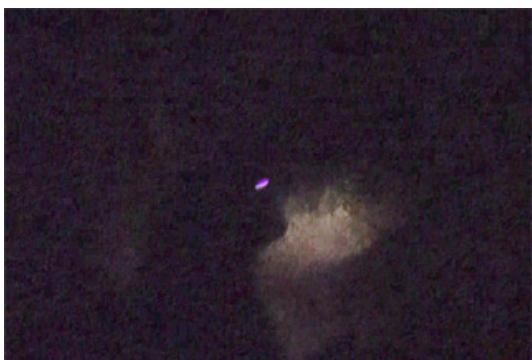


子どもたちは、時々「キャー！」と叫びながらも、真っ暗な中を元気に進みます。

下の写真左は、はんすさんたちが待機していた場所です。左側に懐中電灯を持つお子さんが僅かに映っています。コースのほぼ中間です。(午後8時21分)



上の写真右は、ほかの人の様子をトランシーバーで確認する会長君です。(午後8時24分)



さらに進んで、前方に街の明かりが見えました。私が裏山を出たのは午後8時27分です。

ただ、裏山から出ても遠回りになったのか、キャンプ場に戻ったのは午後8時35分でした。



午後8時50分、子どもたちが管理棟・食堂に集まりました。西田さんから「これからビデオを観てもらいます」と話がありました。

そもそも今回の交流事業は、昨年の2011年10月8日～10月10日、山形県鶴岡市・金山町・新庄市で開かれた“だがしや楽校全国寄り合い2011・子どもサミット”に、私（山口）が、東京都西東京市（子どもアミーゴ西東京）、福島県会津坂下町（金上地区）、横浜市都筑区（まんまるプレイパーク）の子どもたちを招いたことがきっかけです。

その“子どもサミット”には、宮城県の子どもたち、それに地元鶴岡市・湯野浜温泉の子どもたち“ゆさこいパイレーツ”の子どもたちも参加しました。その後、“ゆさこいパイレーツ”の子どもたちと西田さんのお子さん（Hanaさん）は文通を続けていました。それで、“ゆさこいパイレーツ”の子どもたちを今回の交流事業に誘ったのですが、残念ながら参加できませんでした。

そこで、“ゆさこいパイレーツ”の子どもたちでは、ビデオレターを送ったのでした。そのビデオレターを観ようというわけです。

ビデオレターを観る前に、明日の掃除分担を決めます。キャンプ場を出発する前に、掃除することになっているからです。



掃除分担が決まったところで、ビデオレターを観ます。



3つの画像がビデオレターからの映像です。イベントでの演舞、ショッピングセンターでの演舞、それに集合してのメッセージ発信です。



ビデオレターのあとは、まんまるプレイパークの子どもたち、会津坂下町の子どもたちも歌を披露し、交流を深めていました。

これで、この日のすべてのプログラムが終わりました。（午後9時20分）

子どもたちは宿泊室に入って、仕切りを作り、布団を敷きます。シャワーに入るなど寝る前の支度をして就寝です。映像もここまでです。



このあとは、大人同士での交流・談義でしたが、午後11時04分頃、建物がガタガタと音を立てます。地震です。はんすさんがテレビを付けます。震源地は福島県沖、震源の深さは約50km、地震の規模を示すマグニチュードは5.9と推定されます。この地震で、福島県檜葉町と富岡町で震度5弱を観測しました。また、私たちがいるキャンプ場（横浜市くろがね青少年野外活動センター）がある横浜市青葉区では震度2を観測、山形県米沢市でも震度2を観測したことがわかりました。東日本大震災から1年が過ぎても、地震活動は活発です。

大人同士での交流・談義では、それぞれに地域の様子や活動などを紹介しあいでしたが、私からは避難者支援に関わっていることを紹介しながら、先日（3月11日）開催された“つづき楽校・あったか♥復興支援・わすれない3・11”の感想を申し上げました。

このイベントでは“まんまるプレイパーク”の子どもたちががんばり、今回の交流事業のための資金を稼ぐことができ、とても良かったです。そして何より“つづき楽校”の皆さんの「わすれない」という気持ちが伝わり、心打たれました。

しかし、“つづき楽校”の皆さんが「わすれない」というのは、現状のごく一部であることも忘れないでほしいと強く感じました。でも、これは仕方ないことです。すべてを知ろうとしても無理なことですし、実際の活動にもつながりません。大切なのは、自分たちができることで活動すること、「自分たちができること」とは「現状のごく一部であること」を認識することです。

そんなことを話している内、夜は更けていきました。

2012 年 4 月 2 日（月曜日）横浜の天気：晴れ

【だがしや楽校交流事業・まんまるプレイパークの巻・4 日目】

トータル4日間にわたった“まんまるまるまる たのしさもりもり”も、いよいよ最終日の朝を迎えました。今朝も横浜市は良い天気です。朝は肌寒い感じです。



午前6時30分頃、外の様子を見てみると、梅は咲いていますが、桜（ソメイヨシノ）は開花していません。例年なら咲いているはずですが、今年は横浜の桜も遅れています。



午前6時40分、寝具の片付けです。



午前7時20分、朝食です。パンにソーセージを挟んで食べます。おにぎり・スープもあります。



午前8時40分、後片付けとお掃除です。一晩お世話になったくろがねキャンプ場をみんなできれいにします。



食堂



宿泊室



野外炊事場



トイレ



後片付けとお掃除が終わってひと息、と思ったらバッグが私にめがけて飛んできました。子どもたちは、まだまだ元気です。

午前9時50分、終わりの会です。



みんなでセンター・スタッフのOotaさんに「ありがとうございました」感謝の挨拶をしました。

午前 10 時 10 分、バスに乗って、くろがねキャンプ場を後にします。そして、10 時 53 分、鴨池公園（まんまる広場）に到着です。いよいよ、会津坂下町の子どもたちが“まんまるプレイパーク”で遊びます。



公園の東側では、きょうもプレイリーダーのはんすさんを中心にブランコ設置です。上の写真左では会津の Reo 君が挑戦です。ロープを木に引っ掛けないと、ブランコはできません。



ブランコ設置は 30 分ほどかかったかな～。次第にブランコができてきました。傍らで子どもたちが待っています。



一角では、火が焚かれました。“まんまるプレイパーク”では火を使うことができます。ここでお昼の準備が行われます。





時々、ボン！という竹の破裂音が聞こえます。上の写真左は、竹が破裂した瞬間です。右の写真は、その直後です。右のお子さんは、少し身を反らせました。プレイパークのやんちゃさんは「やられた～！」



ロープを張って作った綱渡り・モンキーブリッジでは、女の子さんや荏田東子どもクラブの子どもたちが遊んでいます。



公園の中央では男のお子さんたちがトランプです。プレイパークのまさみっちょさんたちは積み木くずしです。



公園北側のブランコでは、荏田東子どもクラブの子どもたちなどが遊んでいます



西田さんの呼び掛けで、みんな集まりました。荏田東子どもクラブの子どもたちも集まりました。なんでも、きょうは山口県から来られたというお子さんもいます。それに会津坂下町ですので、すごい集まりになりました。

さて、これから何が始まるのでしょうか。西田さんは「公園の中に9つの玉が隠されています。それを探してください」と言います。西田さんの合図で、一斉に探します。



女の子さんたちは、ハンモックに行ったり、公園内を走り回ったりして、探しています。荏田東子どもクラブの子どもたちも探しています。



上の写真右の左側に写っている女の子さん、赤い玉を探し当てました。

実はこの玉、これから行われるマジックで使います。マジックを披露するのは、つづきマジッククラブの世古さんと鈴木さんです。つづきマジッククラブの演技を拝見するのは、昨年（2011年）12月11日の“つづき楽校・年忘れあったか演芸大会”に続いて2回目です。



最初のマジックは、ボードに数字を書いていき、引き算・足し算をして・・・



さらに数字を書いていき、引き算・足し算をして・・・





計算した数字が、あらかじめお子さんが預かっていた封筒の中の数字が一致するというマジックです。



会津坂下町の子どもたちが、「大好き」や「嫌い」とたくさん書いてある紙を折って、ハサミで切ります。その紙を見てみると、みんな「大好き」になっていました。



ボールに入っていたリボンを袋に入れて、お呪いをしますと、見事につながりました。



会津坂下町の子どもたちには、マジック・トランプのプレゼントです。そのやり方も教わっています。キッズ・マジシャンの誕生！です。



お昼のまんまるプレイパークです。



まんまるプレイパークのおかあさんたちが作ってくれたのは、地元都筑の野菜がたっぷり入った“はま菜ちゃんうどん”です。



美味しくて、私も2杯食べてしまいました。



「美味しい！」と言いながらプレイリーダーのやんちゃさんと男のお子さんが食べているのはノビルです。地元のおじさん・市川さんが作った竹のハシゴで遊ぶ子どもたちもいます。



小さなお子さんたちは、土遊びに興じています。



さらに、公園の一角では、紙芝居が始まりました。紙芝居をしているのは、3月28日の横浜市交通局川和車両基地見学で私たちを案内してくださった“つづきをガイドする会”の方です。



会津坂下町の子どもたちが、出来上がったブランコで遊んでいます。大きなブランコです。



こうして楽しく遊んでいる内、午後1時をすぎ、会津坂下町の子どもたちとのお別れの時間が近づきました。

4日間にわたって開催された“だがしや楽校交流事業・まんまるプレイパークの巻 まんまるまるまる たのしさもりもり”も、ついに閉会式を迎えました。

閉会式では、会長君が閉会を宣言しました。つづいて、佐藤房枝さん（会津坂下町・金上公民館）が「普段できない遊びをすることができ、楽しかったです。会津にもまた来てください」と感謝の挨拶をしました。



その佐藤さんへ、市川さんから、竹で作った指輪のプレゼントです。

午後1時20分、会津坂下町の子どもたちと佐藤さん、それに私は、はんすさんと西田さんの車に乗り、“まんまるプレイパーク”をあとにしました。私にとっての“まんまるプレイパーク”は「いつもの遊び場」になっていましたので、「近い内にまた来ます」という感じです。それだけ、この4日間、お世話になったのです。

4日間の“だがしや楽校交流事業・まんまるプレイパークの巻 まんまるまるまる たのしさもりもり”は、私が2年8ヶ月間にわたって携わった“だがしや楽校”普及事業を締め括るに相応しいものになりました。集大成と言えます。

山形県の事業として、NPO法人公益のふるさと創り鶴岡が受託し、私とS氏の2人で展開してきた“だがしや楽校”普及事業。事業展開については、私とS氏に委ねられました。

そこで私は、これまでの“だがしや楽校”との関わりとNPO活動等で積み上げてきた実績を活かし、山形県だけに留まらず、全国をエリアに“だがしや楽校”普及とネットワーク構築にまい進しました。

私の事業展開については、私にとって顧問のような存在である東北芸術大学の片桐教授をはじめ、多くの方々に評価していただきました。一方で、異なる評価をされた人たちがいたことも事実です。

しかし、私は自分の信念を変えませんでした。なぜなら、信念を変えれば『私のだがしや楽校』が崩れてしまい、それまで積み上げてきたものも崩れてしまうからです。それは、多くの“だが

しや楽校”仲間を裏切ることにもつながります。

結果、それは大正解でした。

2年8ヶ月間の活動では、様々は成果を出すことができました。

その中には思いがけない成果もありました。そのひとつは、文部科学省とのつながりです。

“だがしや楽校”は文部科学省にも評価していただき、社会教育・公民館活動の中で紹介されています。東日本大震災発生後、だがしや楽校として被災地・避難者支援に取り組むことができたのは、おそれながら私が文部科学省とのつながりを構築できたからです。

そして、なにより大きな成果は、全国の“だがしや楽校”仲間におけるネットワークを構築していったことです。その現れが、この“だがしや楽校交流事業・まんまるプレイパークの巻 まんまるまるまる たのしさもりもり”です。

特にこの“だがしや楽校交流事業・まんまるプレイパークの巻 まんまるまるまる たのしさもりもり”では、子どもたち同士での、会津坂下・西東京・横浜都筑という地域を越えた交流が生まれました。

この4日間、子どもたちの笑顔を拝見し、まさに感無量です。

本当に良かったですし、この上ない幸せです。

というわけで、“だがしや楽校交流事業・まんまるプレイパークの巻 まんまるまるまる たのしさもりもり”に参加したり関わったりしたすべての子どもたち、そして関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

“だがしや楽校”普及事業としての活動は、これで終わりますが、私と“だがしや楽校”の関係は続きますし、引き続き“だがしや楽校コーディネーター”としての活動を展開します。

これからも、どうかよろしくお願い申し上げます。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター